

## 第5回 有田町総合計画審議会（会議概要）

日 時：平成29年5月23日（火）14：00～15：15

場 所：有田町婦人の家 軽運動室

出席者：【委員17名】岩崎数馬、原田一宏、久保田均、今泉正子、福島清人、  
深川祐次、川内文昭、庄山嘉、川尻敦子、道津功、池田一文、  
松尾利興、山口睦、久家郁子、王寺直子、徳永純宏、  
富吉賢太郎

【事務局4名】木寺寿、福山浩樹、川久保哲、志賀修

【欠席4名】岩永康則、岩谷綾子、瀧上弘徳、小坂智子 ※敬称略

### 1 開 会

木寺：第5回目となります、有田町総合計画審議会を始めさせていただきます。非常に暑い中、昼間の会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。開会に先立ちまして、岩崎会長からご挨拶をお願いします。

### 2. 会長挨拶

岩崎：お集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、5回目ということで、かなりまとまってきております。前回4回目のときには、皆さん方熱く熱く、議論をしていただいて、まとまってきております。今日は事務局のほうからその説明をしてから、作業としてはこれを固めるという時期に来ているということですので、前もって資料も手元に来ていたかと思いますが、そのような流れでお願いをしておきたいと思います。今日はよろしくをお願いします。

### 3 議 事

#### （1）第2次有田町総合計画基本構想案について

志賀：（資料1に沿って説明）

岩崎：前回の審議会の皆さん方の意見を反映した形で、説明があったような修正がっております。これについて、資料1－3ですが町民向けにHPを通じて公開された意見、パブリックコメントについても説明がありましたが、皆さんからの意見を伺いたいと思います。

徳永：4ページの基本構想の部分ですが、ここの「ひとつつながり」と「ひとつどう」

の間にスペースは入りませんか。

岩崎：そのように訂正ですね。はい。

徳永：第3節の目標人口のところですね、図の人口は2010年は20,929人となっていますが、文中では20,909人となっています。

岩崎：2010年の人口ですね。

志賀：大変失礼しました。20,929人が正しい数字です。

福島：第3節の下から5行目では人口の転出超過を現在の50%とすることでありますが、現在の50%というところが私も意味が分からないのですが。

川久保：直近の5年間だと思うのですが、5年間の平均の転出超過数を半分に抑えるという意味で書いております。

木寺：現在の転入と転出としたら、転出のほうが多いわけです。人口が減少している状況にあります。その転出者数を仮に年間の転出超過が100名だとすると、それを50まで減らすと。

福島：その辺を書かないとちょっと分かりにくいかなと。

木寺：地方創生の総合戦略の中でこの人口ビジョンを立てるときに、この基礎数値としてそういった細かいものが後ろの資料としてあるのですが、この2枚だけを出しているときに、説明が足らないので、一文加えるようにしたいと思います。

福島：6ページですが、4 公共・行政の環境変化 のなかで、上から3行目には前例踏襲型の行財政運営から ということ、必要性や優先度を考慮して、最大に効果が発揮できる行政経営へ転換する必要とありますが、行財政運営から行政経営へ転換すると、意味は分かるのですが。財が経営の中に入っている、行政経営でよいということかも知れませんが。行政経営という言葉が入っているでしょ。上が運営なら下も行財政経営といったほうがいいのかと、直感的に思ったものだから。

深川：だいたいどんな意味ですかね。行政経営とは。

木寺：行財政運営、どちらも効率化を目指すわけですが、行財政運営を二つの言葉に分けるとすると、財政運営の効率化と行政経営の効率化の二つがあると思います。その下の行政経営へ転換する必要があるというのは、そういったところを総括的に含んだ言葉として行政経営というものを使っているのですが、この2行の言葉の続き具合から財という言葉が抜けたときに、非常に分かりにくくなるのかなというのは、意見を聞いて思ったところですが、行政経営というのは財政運営、人事、組織、そういったところを含めたところでの行政経営という思いで、この言葉を使っておりますが。

富吉：行政経営と使ったことによって、それは行政運営と財政運営を含めたということですが、ただ単なる運営ではなく経営という意味かなと。

福島：経営を主体に置いた行財政運営に転換するというような表現に。

富吉：ものすごく分かりやすくすれば、最大限の効果を発揮できるよう、経営感覚をもった行財政運営に転換する必要があるということかな。

木寺：前の2行まで、効率的な行財政運営が求められているということが入っていますので、一つの案としてこうした課題に対応するため必要性、優先度などを考慮して最大限に効果が発揮できるような行財政経営へ転換する必要がある、ということでしょうか。

久家：行財政運営と行財政経営という言葉が一般のかたには分かりにくいので、※印をつけて、それぞれ説明をつけていただくと。

深川：運営というとやっぱり素人感覚で、経営というとちょっとプロフェッショナル。そういうことですね。

川内：より高度な方向転換に変わるかなんか、そういう意味ではないでしょうか。

富吉：どうしても運営じゃなくて経営という文言にしたいのだという思いがあるならば、行財政運営のところの上にマルポツを2つつけて、これとこれはこういうことですよと、読んだ人が間違っているのじゃなく、意図的に運営を経営にしていますよという印みたいなものを入れると、そういうことが許されるのであれば。よく強調するときに、これは敢えてしていますよという意味で。経営感覚を持っていなければならぬという意味を強く出したいと。

木寺：分かりやすい表現に変えさせていただきます。

深川：14ページの将来像ですが、暮らす人がイキイキと支えあうという中で、最初になんでもありたな、新たなまちとはどういう意味ですか。

志賀：意図としてはなんでもいろいろな観光資源であるとかいろいろな暮らしができるという意味で、なんでもありなというのを、話す中でタイトルとして紙を掲げて、内容について説明をしてもらったのですが、いろいろ魅力があるということ表現されていました。

岩崎：住民委員会での情報共有をそのままだしているということで、提案した人じゃないとなかなか。

川内：なにかミスプリントかなと思うような。ありたをカタカナにするとかね。

岩崎：住民委員会を4回重ねられて、相当な時間を費やした中での文言が出ているでしょうから。

富吉：ここにそうぞうされるのそうぞうのところと点々がついていますが、そういう意味でさっきの経営のところもしておけば、そういう意図ですと。

久家：このありたなの所もそういうふうにしておくことによって、ミスプリとは見られませんよね。ミスプリと思われるとせつかくの住民委員会での意見が。

木寺：そこはちょっと誤解を招かないように、ずっと認識していただけるような表記に変えさせていただきます。

福島：14ページの空き屋数0のまちは、空き屋数ですか空き屋数ですか。

志賀：これもそのままもってきたわけですが、空き屋敷ということですが。

岩崎：この基本構想は審議会としてはこの形ということで、決定の形でよいでしょうか。  
(全員賛同)

## (2) 基本計画策定について

志賀：(資料2に沿って説明)

岩崎：説明がありましたとおり、今日決定した基本構想については、議会に上程すると、計画については策定部会で策定されたものを、住民委員会に一旦おろして、それを審議会のほうに上がってきて、7月下旬の審議会になるということで、これから具体的な部分に入ってくるというスケジュールになっております。

## 4 意見交換

山口：この会議の内容とか総合計画は町民の皆さんにはどのようにお知らせしますか。

志賀：審議会につきましては、資料、議事録、写真を含めて全部ホームページに掲載しています。住民委員会については特設のサイトを設けて、資料も含めたところで案内をしています。総合計画が完成した後は、ホームページ上に掲載しますし、ダイジェスト版については、各戸に配布することになります。

岩崎：この基本構想が町民のかたに浸透して、いわゆる絵に描いた餅にならないように、10年先のビジョンを掲げながら、目標に向かっていくということが大事になってくるのではないかと思うので、浸透するような形といたしますか、具体的な基本計画に入っていこうかと思えます。

松尾：ありたのあしたアナタカラという住民委員会を開催されたわけですが、10ページには住民討議会とはという説明がありますが、今までの審議会では行政側といつも決まった顔ぶれが多かったので、思い切って企画したのだという趣旨がございしますが、この評価といたしますか、住民委員会を立ち上げたということが従来のやり方と比べてどうだったのかというようなところも、ここでは自由に語り合うまちづくりの場となりましたというところが一つの評価でしょうが、結局、14ページの将来像につきましては、おそらくこれは、完全に網羅しているというわけではなく、住民委員会の雰囲気や気持ちを大切にしようというようなところで、さきほどの「なんでもありたな」みたいに、ここに入れていいのかなというような表現まで敢えて使っているのは、おそらくそういう意図や住民委員会の人たちのご意見、気持ちを大切にしようというようなところでの取扱が14ページに出ているのではないかなというのを強く感じます。ただ、将来像を作るわけですから、それを受けてそういう気持ちを大切にしながら、第3節からできるだけ漏れ

ないような形の構想になっていっているのではと思います。そういう気持ちがよく分かるわけです。そういうことで、住民委員会の扱いのところで、どのような評価や効果、こういうところを大切にしたいのだというようなところを出していただければ、住民委員会を設置した意味が強くなっていくのじゃないかなという感じがしているところです。

木寺：最終的な概要版とか計画書を作成する際にはさらに詳しい住民委員会の取組の内容を資料編に掲載していくこととなります。住民委員会の評価ということで、4回開催した中で、この文書にも書いてありますが、今までなかなかこういった場に顔を合わせることもなかった、見かけなかった方々が活発に、自分の考えをおっしゃられる場があったということでは、非常に有意義な場になったのじゃないかと思います。もう一つ思っておりますのは、今後いろいろな施策や事業を組んでいく際に、このようなやり方が使えるのではないかというのも実感したところです。例えばいろいろな整備事業であったり、いろいろな支援策を検討するとき、こういった方法で把握させていただくということは一つの方法としてできるなというのが実感したところです。住民委員会に参加していただいた方々のこのメンバーの中から、こういった事業をみんなでやろうかと、そういったところまでいければ最高なのですが、そこはまだ歩みの途中ということで、今後、計画の骨子をおろしていくのですが、最終的にはそういうところまで繋げていければなという思いは持っているところです。

岩崎：思い起こせば今年の9月、1回目の審議会で住民委員会の中身について議論がありました。こんな無作為で選んで意見が出るだろうか、集まるだろうかという意見が出たのですが、如何せん全く逆でしたね。今泉委員と一緒に2回傍聴させていただいたのですが、これだけの町民の底力というか、そうものが残っているのだと本当に感動しましたね。

今泉：会長と一緒に、本当にビックリしました。なかなかお見掛けしたことがないかたが活発に、本当に自分の体験から出る意見をおっしゃっていたし、失礼かもしれませんが、回を重ねるごとに成長されている、意見がしっかりしたものをさらに次の回にまた出されるという感じで、皆さんの意識がどんどん高まっていくのに感動しました。最後はですね、さきほど課長がおっしゃったように、行政のチェック機能として自分たちも働きたいとまでおっしゃっていたので、すごいなと思いました。1年に1回は集まって、どこまで行政はいつているのかとか、自分たちはどこまで協力できているのかというのをお互いにチェックしましょうとかいう意見も出てきましたので、あのかたたちを含めどんどん委員会に参加していただき、もっともっと生活に根ざした声が聞こえるのではないかと思います。

岩崎：聞くところによると、住民委員会の懇親会が開かれたりして、無作為に選ばれた組織なのですが、逆にそれが団結されているというに聞いていますけど、やっぱ

り有田はすごいですよ。

深川：定期的なチェック機能が必要ですね。

王寺：P D C Aの機能をきっちりと。

岩崎：そういう意味で住民委員会、審議会、策定委員会でチェックしあいながら、基本構想、基本計画を策定する組織がありますから。また、住民委員会に持っていく日にちとか決まっていますか。

志賀：7月上旬の予定です。

久家：住民委員会に参加されたかたに後からお聞きしたのですが、最後にこういった意見が出たというまとめを発表してもらえるかなと思っていたら、それが無かったので非常に残念だったと言われていたのを、私も耳にしていたので、同じメンバーで揃われるのであればまとめのようなものを発表されると、自分のグループ以外でどういう意見が出たのかというのが、具体的に分かれるのかなと思いますし、本当にすごく協議されていたので、すごく自分たちが参加したのだということ強く思っていますので、そのフィードバックをしていただくと、皆さんより協力してくださるのではないかなと思います。

富吉：そういう意見があるというのは、本気で一生懸命考えられたという証でもあるので、ぜひ。

深川：男女比はどうだったのですか。

木寺：住民基本台帳から年代別、性別を考慮して無作為に抽出しています。地区の推薦と職員が入りましたが1000名の中から入っていただいたのは64名でした。

富吉：無作為に抽出されましたからといって、そこまでいくのはたいしたものですね。

徳永：案内とかは別になかったのですよね。知っていれば私も覗きに行ったのですが。

今泉：私の受けた感じでは、区の推薦のかたがリーダーシップをとってらっしゃるなと思ったのですが、各区の代表だということ意識して参加されていたのかなという感じがありました。役場のかたが大変でしたよね。皆さんきちっと入って、専門のところから来られていたので、行政側の意見もちゃんと言われていたので、バランスがすごく取れていたなと思っています。

富吉：有田ってそういう住民の意識が高いところにあると思います。パブコメを見ても、確かに有田と西有田ではカラーが違うところがひとつになったものですから。改めて見ると、旧西有田の人は旧有田のことを知っているようで知らない。逆に有田の人は西有田のことを知らないということをやや感じたから、今度の将来像の中では、旧町意識をはねてひとつの有田住民というようなことを目指す。すぐにこういった意見があるときに、できるものならちょっと取り組んで反映させるとその人の、自分が言ったことが、例えばコミュニティバスの観光客も大丈夫ですよという回覧が一本でもあったら、考えによってはできないことはないのではないかなと思ったものです。この中にキッズ検定のようなものがあって、唐津がイ

カ検定をしていて、結構いま県外からそういう人たちが参加していて。

徳永：今まで内山の検討会がありましたね。駅前開発の話とか。ここではグループに分けて。

木寺：グループとしては5つに分けました。今回の基本構想の5つの分野に分かれて話し合いをしました。

原田：今日の議論をうけて、明後日に議員の全員協議会の中で、質問もでてくると思います。

岩崎：審議会の熱い思いも伝えてください。

川内：佐賀大学の有田キャンパスの講座案内を受けてですが、昨日の会議の中で要望として話をしたのですが、やきものだけじゃなく、農学部も今後キャンパスの中に地域農業とかそういうものを研究するシステムを作って欲しいという提案がありましたので、町のほうから佐賀大学のほうに有田キャンパスの中にやきものと農業を一緒にするような、体験とかできるようなシステムを要望していただければ、検討がすすむのではないかなと思います。

富吉：農学部はそういった話があれば、たぶん来ると思います。

川内：地域農業ですので、民泊とか夏休み期間にカリキュラムにいれてくれれば。

富吉：しかも、やきものと農業とかというのもコースの中にあるから。

川尻：文化協会の会長に見せたりしたところ、「おせっかい」という言葉が有田のイメージにマイナスにならないかとおっしゃったのですが。私は聞いて、住民委員会のかたがベストな言葉と検討されたから納得はいくのですが、ぱっとここだけみられて、内容をみんな見れば分かるのですが。ちょうどその時期に弟の子どもからおせっかいかんでよかけんがとか言われたものですから。有田のイメージが悪くならないといいのですが。ちょっと会長がここにひっかかれて、有田のイメージを悪くしないかとおっしゃったから。どうでしょうか。

富吉：今はどちらかというプラス面で、つまり一昔前はこうだったけど、ちょっと個人主義があって、あまりかまわないでいいという風潮だったが、今は、特に人口減少社会の中で地域が、そういう意味ではプラスに捉える人が多いのではないかな。

川尻：審議会でも審議して私も納得しているのですが、これだけ見られたら、とんでもないと言われたから。

徳永：おせっかいというのはお世話しましょうという意味合いではないでしょうかね。20年前に老人会長をしていた頃は、朝から声かけしましょうとか、あまり深く入ったらいけないとかいう問題があってなかなか難しいなと思っていましたが。こういう高齢化社会になって声をかけましょうと。

富吉：ちょうど昨日、県の会議でもこのおせっかいという言葉が出て、今からの、県が明治維新150年をどういうふうにして売り出すかというので、ホスピタリティ

というのはおせっかいのなかにね、人と関わりあってアピールしたりお世話したりするのが今からの時代みたいな話がありました。おせっかいという言葉の中には取り違える人もいるかも知れないけど、今はおせっかいと言われても、さらに何か手助けしましょうかというくらいにやっていいのではないかと。良い意味で。

岩崎：今日は第5回の審議会ということで、暑い中貴重なご意見いただきまして、本当にありがとうございます。次回は7月の下旬あたりということですので、24日の週を予定していますが、27日の2時でよいでしょうか。次は基本計画の審議に入っていこうと思います。どうもお疲れ様でした。